

「カパール運営委員会 2018-21 年度議事録等集成」の説明

作成：加藤剛（20240409）

1. 「カパール運営委員会 2018-21 年度議事録等集成」（以下「集成」）は、加藤剛・倉沢愛子がインドネシア研究懇話会（カパール）の共同代表を務めた 2018 年度から 2021 年度までのカパール運営委員会の議事録等を纏めたものである。

2. 本来「集成」は、代表交代に合わせて 2022 年 3 月末までに纏めるべきだったが、加藤の個人的な事情により取り掛かるのが大幅に遅れ、本格的な作成作業は 2022 年秋に過去の議事録の整理から始めた。「集成」が完成したのは 2023 年 4 月初頭である。具体的にどのような作業を行ったのかは、以下の「5.」に記した。

3. カパールは、メンバーシップが規定されている学会とは異なる。かといって参加者数が限定的でその存在に年限があるような研究会でもない。カパール・メーリングリストの登録者も研究大会参加者も比較的大きな「集まり」、「インドネシアと関わりを持つ人」の「集まり」である。「組織」のようでありそうともいえないカパールの立ち上げと運営は、多くの思考錯誤と試行錯誤を伴った。その過程をきちんと記しておくことは、カパールをいかにによりよく運営していくかを検討する上で今後参考になるだろうと考え、人によっては不要と思うかもしれないほどに、「集成」にはなるべく多くの記録を盛り込むようにした。これはあくまでもカパール創設・運営初期の記録として重要だと考えたからであって、これが今後の議事録等のモデルになるとは考えていない。

4. 作成を急いだこともあり、完成した「集成」にはフォルダー間の関係が理解しにくい等の難点があった。今回、佐藤百合代表、長津一史副代表の下で 2024-25 年度カパール運営委員会が立ち上がるのを機に、以前纏めたフォルダー群を再整理し、フォルダー・ファイル・目次などの名称の一部をより分かり易いように整理し直し、カパール・ウェブサイトへのアップが検討可能な形にするように努めた。

5. 「集成」の作成ならびに上記「4.」に関して、具体的にを行った作業は以下の通りである。

1) ひとつひとつの議事録関係ファイルを確認し、会議に参加しなかった人に分かりにくいと判断した部分については、既存の議事録等に「加藤追記」を挿入したり文章に手を加えたりした。一部のフォルダーやファイルの「更新日時」と会議開催日の間に乖離があるのはこのためである。ただし、文章の内容や会議・会合の決定などについては変更も加えていな

い。

2)「集成」の作成過程で、一部のファイル名をより分かり易い名称に変更したものがあ
る。この変更は、他のファイルでこれに言及する際には新しいファイル名に修正するよう
に努力した。しかしながら、これが徹底できなかつた事例もあるかもしれないことに留意され
たい。

3)「集成」にある会議・会合の記録は、大きくは「検討事項」(議題のこと)と「議事録」
から成り、いくつかの事例では「資料」のファイルなりフォルダーが付されている。この中
で一番重要なのは当然「議事録」ないしそれに相当する文書である。「検討事項」や「資料」
は、「集成」閲覧者の必要に応じて参照してもらえればと思う。

4)「議事録」には「確定版」と記されたものとそうでないものがある。この言葉の有無
にかかわらず、全ての「議事録」ないしそれに相当する文書は、文言の確定後に会議・会合
参加者に送信し確認を求めている。

5)初期の「議事録」は「部外秘」と記されている。これは、主要決定事項は研究大会時
の「運営委員会報告」で報告しており(カパル・ウェブサイトの「カパル航海録(運営委員
会報告)」を参照)、会員制をとらないカパルでは「議事録」を運営委員会以外に開示する必
要はないと考えてのことである。ちなみに、東南アジア学会を例にとると、理事会の決定に
ついては学会員向けの『東南アジア学会会報』に摘録が載ってはいるが、理事会議事録その
ものは開示されていない。

6)カパルの初期4年度間の運営においてもっとも心を砕いたことのひとつは、運営委
員の選任と次期代表・副代表の選任のルールをいかによりフォーマルなものにするかだっ
た。これは上記「3.」で記したようなカパルの性格からして難しい作業となった。これに
関連した2020-21年度の試みは、運営委員選任については「集成」のフォルダー「2020年
度議事録等」>フォルダー「202011大会後~年度末の動き」に、代表選任についてはフォ
ルダー「2021年度議事録等、含新代表選考過程」>フォルダー「2021年度議事録、2)新
代表投票と代表決定まで」にある。今後の参考にしてもらえればと思う。

以上